

分担研究報告書

油症患者の追跡調査

研究分担者 小野塚 大介 大阪大学大学院医学系研究科罹患後症状治療学 特任准教授
研究協力者 中村 優子 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 看護師
辻 学 九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター 准教授
中原 剛士 九州大学大学院医学研究院皮膚科学 教授

研究要旨 油症患者の長期死亡リスクについて再評価を行うことを目的として、追跡調査を 55 年間に延長し、油症患者の生存・死亡情報をアップデートした。その結果、追跡対象者 1,664 名のうち、2024 年 12 月 31 日時点で生存の確認ができた者が 793 名 (47.7%)、死亡の確認ができた者が 777 名 (46.7%)、生死の確認ができていない者が 94 名 (5.6%) であった。

A. 研究目的

我々はこれまで、油症患者を対象とした追跡調査を実施してきた。40 年間の追跡調査の結果、男性の油症患者では全がん、肺がん、肝がんの死亡リスクが一般人より高いことを明らかにした (Onozuka et al., Am J Epidemiol, 2009)。また、50 年間の追跡期間の結果、男性の油症患者では全がんと肺がんの死亡率が一般人より高いこと、女性の油症患者では、肝がんの死亡率が一般人より高いことを明らかにした (Onozuka et al., Environ Health, 2020)。さらに、がんの 50 年間累積死亡率を検証した結果、男性油症患者では 16.8% (95% CI: 14.5-19.5)、女性油症患者では 8.8% (95% CI: 7.0-10.9) であることを明らかにした (Onozuka et al., Environ Int, 2021)。今後、追跡期間をさらに延長し、油症患者における長期死亡リスクの検証を進めていく必要がある。

そこで本研究は、追跡期間を 55 年間に延長するとともに、油症患者における死亡リスクを再評価することを目的として実施した。

B. 研究方法

前回実施した 50 年間追跡調査の対象となった油症患者 1,664 名について、行政機関、油症センター、油症相談員等の関係者にご協力いただき、生存・死亡情報のアップデートを行った。

また、死亡患者における死因の特定については、油症患者の名簿記録と人口動態調査 (基幹統計調査) の死亡票との照合を行う必要があることから、厚生労働省に対して新たに死亡票の使用申請を行った。

なお、死亡票の使用については、これまでも厚生労働省から承認を得て実施したものである (平成 20 年 2 月 22 日付け厚生労働省発政統第 0222001 号、平成 20 年 12 月 24 日付け厚生労働省発政統第 1224001 号、令和 2 年 3 月 9 日付け厚生労働省発政統 0309 第 3 号、令和 2 年 12 月 9 日付け厚生労働省発政統 1209 第 2 号)。

(倫理面への配慮)

本研究は、九州大学医系地区部局臨床研究倫理審査委員会及び九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会「カネミ油症の実態調査」(許可番号:30-384、2020-212、2023-24) の審査を経て実施した。

C. 研究結果

人口動態調査（基幹統計調査）の死亡票の使用については、厚生労働省政策統括官付参事官付審査解析室に申請を行い、新たに承認を得た（令和6年7月22日付け厚生労働省発政統0722第6号、令和6年10月16日付け厚生労働省発政統1016第4号）。

また、油症患者追跡調査の対象である1,664名の生存・死亡情報をアップデートした結果、2024年12月31日時点で生存の確認ができた者が793名(47.7%)、死亡の確認ができた者が777名(46.7%)、生死の確認ができていない者が94名(5.6%)であった。

ただし、これらの情報のすべてが、住民票抄本等の公文書によって確認できたものではないことから、暫定的な結果であることに注意する必要がある。

D. 考察

今回、行政機関、油症センター、油症相談員等の関係者にご協力いただき、油症認定患者の追跡情報をアップデートすることができた。しかし、生死の確認ができなかった者が残されていることから、今後も関係者への情報収集や公的情報をもとにした生存確認を継続する予定である。

また、死亡者の死因特定に必要な人口動態調査（基幹統計調査）の死亡票の使用については、厚生労働省審査解析室から新たに承認を得ることができた。今後、死因が特定されていなかった死亡患者について、死亡票と照合させることで死因の特定を行うとともに、55年間追跡調査による長期死亡リスクの解析を行っていく予定である。

E. 結論

油症患者の追跡調査を55年間に延長し、油症認定患者の生存・死亡情報をアップデートした。その結果、追跡対象者1,664

名のうち、2024年12月31日時点で生存の確認ができた者が793名(47.7%)、死亡の確認ができた者が777名(46.7%)、生死の確認ができていない者が94名(5.6%)であった。

なお、追跡調査は継続中であり、あくまでも暫定的な結果であることから、今後も公的情報等による追跡調査を継続するとともに、主要死因別における長期死亡リスクの再評価を進めていく予定である。

(謝辞)

本研究の実施にあたり、九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センターの井上豊子氏、渡辺直子氏、九州大学大学院医学研究院皮膚科学分野の梶嶋啓子氏、油症相談員の只熊幸代氏、山根美喜子氏、相談支援員統括の山本直子氏に多大なるご協力をいただきましたことを深く感謝いたします。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし